

I 先行する恵み。私達は、御使いより偉大な御子イエス様を心に迎えている。

4-14節。背景：この手紙が書かれた頃、一般のヘブル人の間に、御使いを礼拝する事が広まりつつあったようである。

1. 御使いよりも、さらに優れた御名＝「わたしの子」(：5)と御子は呼ばれている。

「神はいったい、どの御使いに向かって言われたのでしょうか。『あなたはわたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ』：5。

「あなたを生んだ」とは、御子イエスが、ある日、人間の赤ちゃんの様に御父から生まれたという意味ではない。御子は、永遠の始めから存在しておられる神である。この「生んだ」とは、王の即位の意。つまり、「わたしが(父なる神)、あなた(御子)を王に立てた」という意味。この偉大な御子イエス様を感謝します！

2. :6→「神のすべての御使いよ。彼にひれ伏せ。」と御父が言われた。

ひれ伏すべき方は、神のみ。それゆえに、御子は、神ご自身。

3. :8-9→父なる神が、はっきりと、御子イエスについて「神よ」と呼びかけておられる。

これは大変貴重な箇所。

なぜなら、エホバの証人(ものみの塔、キリスト教の異端)は、父なる神だけが神であり、「御子イエスは神ではない」と教える。

それに対して、本日の箇所は、明確に、御子イエスは神であると教えている。

父なる神は、「御子については、こう言われました。『神よ(御子に対して)。あなたの王座は世々限りなく、あなたの王国の杖は公正の杖。あなたは義を愛し、不法を憎む。それゆえ、神(御子)よ、あなたの神(父なる神)は、喜びの油で、あなたに油を注がれた(真の王の即位式)』：8, 9。

4. :10-12→父なる神が、御子イエスを「主よ」＝「ヤハウエ、エホバよ」と呼ばれる。

これも同じく、「神よ」との意味。

※エホバの証人は、「エホバは、父なる神だけです」と教える。しかし、聖書は、それを明確に否定し、御子イエスもエホバ、神と教える。

父なる神が、御子に向かってこう言われる。

「主(エホバ、ヤハウエ、神)よ。あなたははじめに地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです(御子は天と地の創造者)。これらのものは滅びます。しかし、あなたはいつまでもながらえられます。…あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません」：10-12。

御子を賛美します！

5. :13→父なる神の右に着くのに、ふさわしい唯一のお方。

御子を賛美します！

6. 「御使いはみな、奉仕する霊であって、救いを受け継ぐことになる人々に仕えるために遣わされているではありませんか」：14。

御使いは、神と信者に仕えるものとして神に造られた。

御使いより私たち信者が偉いというよりも、私達が偉大な御子イエス様を信じる花嫁であるがゆえに、御使いは私達に仕えるために遣わされている。感謝。

II 私達の信じる救い主イエス様は、こんなに素晴らしい偉大な神。

先行する恵み→「こういうわけで、私たちは聞いたことを、ますますしっかりと心に留め、押し流されないようにしなければなりません」2：1。教理、恵みから実践へ。

## 1. 「押し流されないように」の意味

＝水夫達が天候や風や湖の動きに対する注意を怠ったために、船が港から押し流されて、漂流してしまった状態。

激しい台風よりも、気が付かないうちに、少しずつ水に押し流されて起こる破船の危険。

※海水浴場の海での浮き輪で少しずつ流される危険の様に。

私達の信仰生活の中で、このような少しずつの漂流と破船が何と多い事か！

正面切ってイエス様に反抗するよりも、日が経つにつれて、少しずつ離れて行く事が多い。

①まず目に見える体ではなく、心が離れて行く。

②それも意識的にではなく、自分でも気づかないうちに、いつの間にか罪へずるずると押し流されて行く。

③そして、気が付いた時には、信仰はほとんど破船状態になっている。

④特に、現代人の私達の生活は、ますます忙しく、そのテンポも、ますます速くなっている。

無意識のうちに、御言葉の熟読や祈りが、いつの間にか、わきに押しやられ、神との幸いな交わりが後回しにされる危険がある。はっきり公に悪いと分かる事以上に、少しずつ神から離れて行くこの種類の誘惑の方が、私達にとり、はるかに危険！

## 2. 「私たちは聞いたことを」：1。

この手紙の記者は、「あなたがたは」とは言っていない。「私たちは」と自分を含めている。つまり、信仰の破船は他人事ではないという自覚。自分の弱さ、問題として、目を覚まして祈って行きたい。

「立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい」Ⅰコリント10：12

## 3. 真の敵である悪魔（神が造られた優れた天使が、高慢になり墮落し悪魔になった）が用いる具体的な誘惑

①間違った教え＝聖書の私的解釈。66巻の聖書に、人間の教えを加える。反対に66巻の教えから、ある箇所を除く。そこから、信仰と生活がおかしくなる。

②高ぶり、名誉欲、慢心→すべての与え主を忘れる。自分は、神に用いていただく立場なのに、逆に、自分の野心の為に神を利用する。神と人のことばを聞かなくなる。地位、権力に酔う。人は皆、自分の分、身の丈を越えた権力を持つと、おかしくなる。不正に加担する。保身の為に間違った忖度をする。そこに、うそが生まれる。うそがうそを増やす。

③偽善→外側は立派だが、内側は、腐って行く。長すぎる権力も腐る。

④富の惑わし→マルコ4：19。Ⅰテモテ6：9，10。

わいろ、えこひいき、不正、横領、正しい経済管理の麻痺。ギャンブル依存症。すぐに儲かるという誘惑に飛びつく。

⑤異性との不品行、淫らな行為→誰も強い人はいない。だから、御聖霊の力が必要。神から知恵をいただく人は、けじめをつけ、自分の弱い場に近づかない。心のちょっとした隙に悪魔は誘惑を仕掛けてくる。

Ⅰテサロニケ4：3

## Ⅲ 励まし、勝利への道＝2：1

→①聞いた御言葉を、ますますしっかりと心に留める

＝心を、注意を向ける。傾聴する。気を付ける。使徒20：28。用心する。ルカ17：3。専念する。固く着く。

②聞いて、すぐに忘れるのではなく、御言葉を分かち合い、その御言葉を覚えつつ生活する。繰り返し、その御言葉を聞き、みつめる。

③お互いに祈り合い、共に助け合い、進んで行く。「私のためにも…祈ってください」エペソ6：19。

④「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを捨てない」ヘブル13：5と言われる主に拠り頼もう。

祈り：私達の信仰の船が、港（御子イエス様）から押し流されて、破船しないように、私達を守り続けて下さい。船長の主が、私達を決して見放されない恵みを感謝！